

今月の論語

戈して
宿を射ず

巢籠もりをしている鳥は
取らない。人間はやさしい
心が大切である。

今月の帰宅放送は、東原岸中央校9年の川添萌音さんです



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○菩薩は本来悟りを開く
前の修行中の者を称し
ます。
○白毫は白い毛で光明を
放ちます。
○剣は知恵を象徴すると
されます。
○宝珠は願いをかなえる
不可思議な玉です。
○天衣はシヨール状の衣
です。

光背と坐像と蓮華台が一体化しています。頭髪上に骸手状の宝冠を載せ、宝冠中央には蓮華台に立つ化仏を刻んでいます。額に白毫があり、細長い大きな目が刻まれ、胸飾りがあります。右手に三鈷剣を握り、左手に蓮華に包まれた宝珠を持っています。天衣が肩から両腕に垂れています。砂岩製の像です。虚空蔵菩薩とは、虚空(大空や宇宙)のように、知恵と慈悲を無限に蔵した菩薩という意味です。

野の仏ギャラリー 29
虚空蔵菩薩坐像

北多久町大字多久原

連載

「写真の力」

教育長コラム

ちょっといい話



東日本大震災以来、探し続けた報道写真にSNSの力で巡り合えた。地面をたたきつける雪の中、草鞋で数珠を片手に被災地の瓦礫の中を祈りながら歩く僧侶の写真。この写真に出合った犠牲者のご家族を、どんなにか穏やかに鎮めたことでしょうか。

こんな写真にも出合った。蹄鉄の調整の為、月に一度訪れる馬を目当てに赤いランドセルの子がやって来る。馬は優しくその子にまなざしを向けている。子はこちらに背を向け、馬と視線を合わせ何やら語っている。子を受け入れるとは、こういう姿なのだと感じを受ける。奥に小さく蹄鉄の調整に励む男性がみえる。写真展に訪れた男性の娘は、涙を流した。「馬の臭いで嫌がらせを受けた日々、父に疎ましさを持った。でも、この写真で救われました」。

一枚の写真は、生き方さえ変える力を持っている。

教育長 田原優子

市民文芸

◆黒き種子紙に包みてしまいいり
播かずに逝きし夫の手筆笥
川浪 信子

◆オリンピックくするとしにないにもめた夏
テレビ観戦 感動の嵐
梶原恵美子

◆ただ一本芝生に伸びる細い茎
風雨にめげぬコスモスの花
浦野 嘉恵

◆嘘ばかり増えていく日々 真実が
心という名の鏡にうつる
野崎 隆幸

◆築当時 広き畳が映えし居間
我が年経りてベッド置かるる
尾形 節子

◆仏壇の色は伽羅色 白桔梗
富樫 明美

◆両の手に野菜果物盆用意
本村 則子

◆秋草に野の風も入れ売られけり
おおよはな
砥草かな
武富 律子

◆ぞくぞくと庭を占めたる
秋草を束ねて小さき野の仏
中嶋 清子

◆兄妹のはじける笑顔金メダル
中尾 和弘

◆煩いな早く起きよと 蟬の声
田代えみ子

◆向日葵は天山を背に自己主張
大谷 和

◆オリンピックく夢に感動夢舞台
東島すみこ

◆毎日がソーメンで足る夏の昼
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 互選》